

One-Bo Plus SingleTYPE 利用インタビュー

医療法人三つ葉 三つ葉在宅クリニック様





医療法人三つ葉 三つ葉在宅クリニック

院長 中村 俊介 様

医療法人三つ葉 三つ葉在宅クリニック

三つ葉在宅クリニックは、「高齢者が安心して暮らせる医療モデルを創りたい」という思いから2005年に在宅専門クリニックとしてスタートしました。安らぎのある暮らしの中で医療を受けたいという多くの人のニーズに応えようと、グループ診療によって24時間対応を実現し、診療活動を行っています。

基本は月2回、決まった時間に医師が患者さん宅を訪問し診察・検査・薬の処方などを行います。また、夜間・休日を問わず、患者さんの容態が悪化した場合には緊急往診を行います。24時間365日いつでも対応できるよう、複数の医師によるグループ診療体制を構築しています。



変化に合わせて改善に取り組む「診療体制」

三つ葉在宅クリニックは、名古屋市内において主に高齢者を対象に医師が患者さん宅を訪問する「在宅医療」に取り組んでいます。2020年以降の新型コロナウイルス感染症の流行により、厚生労働省は、特例的な措置として電話や情報通信機器を用いた診療（オンライン診療）による薬の処方を幅広く認めました。当院では、対面による診察を基本としつつ、補完的な位置づけとして電話による薬の処方を活用していましたが、2023年7月末にこの特例的な措置が終了。2023年8月以降は電話による薬の処方が不可となりました（オンライン診療では引き続き可能）。これを機に当院では、オンライン診療の体制を構築し、2023年8月より運用を開始しました。

オンライン診療は、患者さんのプライバシーに十分配慮された環境で行う必要があります。当院の医師は、主に移動中の往診車の中でオンライン診療を行うことが多く、クリニック内にはオンライン診療専用の場所は設けていませんでした。その為、診療所に戻ってきた後の「患者さんのプライバシーに配慮した環境の確保」が課題となり、個室ブース導入の検討をスタートしました。



患者さんのプライバシー配慮を最優先に

購入の決め手は2点あります。1点目は遮音性です。検討時、パーティション型も検討しましたが、外部に音が漏れてしまうのが懸念点でした。One-Bo Plusは、個室タイプで遮音性にとても優れている点が気に入りました。2点目はカラー展開です。当初、One-Bo Plusのカラー展開は黒色のみでしたが、新色として白色も登場し、診療所の雰囲気と色がマッチしていることも導入の決め手となりました。導入前はサイズが大きいため、室内を圧迫するかもと少し心配していましたが、実際に導入してみると丁度良いサイズ感で快適に利用できています。

導入後は、主にオンライン診療や患者さんへ電話をかける際に利用しています。机の高さは720mmか1000mmで選択できるのですが、1回あたりの利用が5～10分前後と、短時間で利用することを想定していた為、椅子を置かずに1000mmで設置しました。

オンライン診療に個室ブースは必需品

近年、厚生労働省は、「オンライン診療の適切な実施に関する指針」を策定し、医師や患者、関係者が安心して活用できるよう、ルールの整備と定期的な見直しを進めています。今後も、オンライン診療の普及とともに個室ブースの需要は確実に増えていくでしょう。社会情勢は日々変化していますが、今後もより、患者さんに寄り添いながら、柔軟に対応し地域生活インフラを支えていきたいと思っています。